

「おかえりなさい。昭和の町へ。」

92

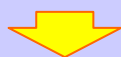
ぶ ん ご た か だ

豊後高田

(大分県豊後高田市)

注目ポイント！

- 活きた商店街を昭和の町に再生。商業と観光の一体化。
- 民間受皿組織「豊後高田市観光まちづくり株式会社」を設立、営業活動や施設整備事業等に取り組む。



シャッター通りとなっていた商店街に観光客が賑わう
約25,000人(H13)から約250,000人(H17)に！



観光客で賑わう商店街

コラム

商工会議所職員としてまちづくり企画に携わる中で、地域全体の振興構想「くにさき千年ロマン」を提唱。「昭和の町」はその「山」「里」「街」構想の一つに当たる。「昭和の町」整備においては、昭和の店等仕組みづくりを画策。また、企画担当として商店一軒一軒を説得し、昭和の店の品質向上に尽力している。



商工会議所 金谷 俊樹氏

これまでの経緯

- | | |
|-------------|--|
| 平成13年(2001) | 「昭和の町」事業を開始する。
商店街街並み修景事業を開始する。 |
| 平成14年(2002) | 「昭和ロマン蔵」事業が開始される
「駄菓子屋の夢博物館」が開館する(入込客数5万人)。 |
| 平成15年(2003) | 「ダイハツミゼット」昭和の町に集まれ！を実施する(入込客数20万人)。 |
| 平成16年(2004) | 「昭和の絵本美術館」が開館する(入込客数22万人)。
「豊後高田昭和の町並み」が手づくり郷土賞を受賞する。 |
| 平成17年(2005) | 豊後高田市観光まちづくり株式会社が設立される(入込客数25万人)。
レトロカーで行く「昭和の町」懐古ストリートを実施する。 |
| 平成18年(2006) | 「旬彩南蔵」が開店する。 |

当該地域は「わたしの旅100選」(平成17年)として選定されたプランに含まれています。

主な取り組み

昭和の町整備

「昭和30年代」をテーマに商店街の店舗整備に取り組み、アルミの建具を木製に復元したり、木製やブリキ製の「昭和の看板」に改修するなど、建物を建築当時の趣に再現（建築再生）。外観だけでなく、お店に代々伝わる珍しい道具の展示（歴史再生＝一店一宝）や自慢の商品の販売（商品再生＝一店一品）とともに、お客様と店主が会話をする商い（商人再生）を展開し、活気ある昭和の商店街を再生。



修景前



修景後

昭和の町ご案内人制度

「昭和の町」の歴史や、それぞれの店に並ぶお宝などエピソードを交えながらその魅力を伝え、訪れる方々とのふれあいを大切に取り組んでいる。

（事業主体：まちづくり株式会社）



昭和の町の魅力は「人と人とのふれあい」です

レトロカーで行く「昭和の町」懐古ストリート



昭和の懐かしい光景が蘇る

昭和の町に似合う車であるダイハツミゼットを活用した「ダイハツミゼット昭和の町に集まれ！」。

官民一体でミゼットなどレトロカーをレンタルして昭和の町を観光してもらう「レトロカーで行く昭和の町懐古ストリート」などレトロカーを使ったイベント事業を実施。

問い合わせ先

- 豊後高田市商工観光課
Tel : 0978-22-3100 <http://www.city.bingotakada.oita.jp>
- 豊後高田市観光まちづくり株式会社
Tel : 0978-23-1860 <http://www.showanomachi.com>